みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

SER no.056; あとがき

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2009-04-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中牧, 弘允 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/1833

あとがき

中牧弘允

共同研究は2003年度から開始されたが，第2回の研究会にはテーマソングが披露・演奏され，全員で歌うことになった。♪新しい風と希望のなかで～きっと素敵な時代へとつながるであろう～♪民博と学校現場の先生がたとのコラボレーションはこうしてはじまった。

民博にはたくさんの生徒がおとずれるが，どういう学びをしているかについて，民博側はほとんど知らない。どの学年で何が教えられているのか，まったくと言っていいほど関心を払ってこなかった。一度，研究会の課題で「小・中・高等学校の教科書におけるアメリカの取り扱い」について小学校の図画工作，社会，国語，音楽，中学校の音楽と地理，それに高校の世界史から資料をまとめてみたことがある。教科書は北米に偏向していることが判明したが，常設展示場とつながるとっかかりは際限なくあるという印象をうけた。だが，あまりにも膨大すぎて，本書には掲載できなかった。というより，もてあましてしまった，というのが実情に近い。

ところが，さすがに学校の先生たちのことはある。常設展示ばかりか，特別展，巡回展，展示図録，ホームページなどを活用して見事な指導案をつくり，教室で，民博で，あるいは文化祭でそれぞれ実践に移していったのである。その結果が随時研究会に報告され，また教室にフィードバックされていった。

研究会は2年で終了するはずだったが，子どもたちの作品展をかねて博学連携の研究成果を展示しようということになり，研究期間を1年延長することになった。目下，夏の企画展「学校がみんぱくと出会ったら―博学連携の学びと子どもたちの作品展」（7月28日～9月5日，民博正面エントランスホール）にむけて，準備の渦中にある。

報告書原稿の提出は小・中学校の義務教育の先生がいちばんはやく，高校の先生も期限を守ったが，大学の先生や博物館関係者には多少の遅れがあり，もとより一般化はできないが興味深かった。しかし，異例のスピードで刊行にこぎつけることができたのは，企画展の会期がせまっていること，8月4日には日本国際理解教育学会と民博との共催で教員研修ワークショップが予定されていることにくわえ，館内の研究出版委員会の協力が得られたことがおおきかった。

この共同研究会は民博にとってもはじめての本格的な博学連携の取り組みだった。メンバーのみならず特別講師として参加していただいた先生がたにも感謝もうしあげたい。

民博側は表にはあまりでず，もっぱら裏方として支援した。『月刊みんぱく』2005年7月号は特集「学校がみんぱくと出会ったら」を組み，本報告書のエッセンスをエッセ

イ風にまとめ，企画展に間に合わせた。また大阪周辺の学校にも広く配布した。企画展を見て，博学連携にさらに関心をもたれた先生方には，ぜひ本書を紐解いてほしいとねがっている。